

# 保育学科ゼミナールにおける「食育」実践報告

## ——「山口食育カルタ」制作を通して——

高 杉 志 緒

An Action-Training Report on *Shokuiku*  
Through the Production of the “Yamaguchi *Shokuiku* Playing Cards”  
Presented at the Department of Early Childhood Education and Care Seminar  
by  
Shio Takasugi

### 要旨

本稿は、平成 21（2009）年度、保育学科ゼミナール授業活動（総合学習）に関する教育実践報告である。平成 17（2005）年に「食育基本法」が制定されて以降、保育の現場でも「食育」の導入が本格的に行われ、「地産地消」の取り組みも盛んになっている。このような社会的動向に鑑み、執筆者が指導を担当したゼミナールでは、学生が主体となって「山口食育カルタ」を作成し、展示発表・実践発表を行った。本活動を通じて、当初の目標である〈領域「言葉」を土台に「食育」に関する保育学生の資質の向上〉は概ね達成できた。今後、更なる学生の資質の向上を目指すと同時に、地域交流・実践活動も踏まえたゼミナール活動を展開することを目標としたい。

キーワード：食育基本法、地産地消、下関ぶちうま食育プラン、幼稚園、言葉遊び、  
第 50 回 中・四国保育学生研究大会、総合学習

### Summary

This paper is an educational action-training report on the teaching activities (period of Integrated studies) conducted during Fiscal Year 2009's Department of Early Childhood Education and Care Seminar. Ever since the enactment of the “Basic Law of *Shokuiku*” in 2005, “*Shokuiku*” or food and nutrition education, has been introduced on a full scale even in the field of operation of Early Child Education and Care, with an active level of involvement seen in the concept of “Regional Production for Regional Consumption”. In view of such social trends,

students at the seminar the author of this paper was in charge of, came to produce the “Yamaguchi *Shokuiku* Playing Cards” and presented exhibits as well as action-training reports. Through these activities, the original objective of striving for an improvement in the nature of the Early Childhood Education and Care student in the area of Food and Nutrition Education by placing a groundwork on regional “language”, was by and large achieved. For the future, I would like to set my goals on the holding of further seminar activities that take into view regional interchange and action-training activities, in addition to targeting further improvement in the nature of the student. (Translated by David Kalischer)

Key words : Basic Law of *Shokuiku*, Regional Production for Regional Consumption, *Shimonoseki Buchiuma Shokuiku* Plan, Preschool, Word game, The 50th Chugoku and Shikoku district's Students Congress of Early Childhood Education and Care, Integrated studies

## 1 はじめに

平成 17 (2005) 年 6 月、「国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができるよう、食育を総合的かつ計画的に推進すること」を目的とした「食育基本法」(法律第 63 号) が制定された。この第 18 条に規定された市町村食育推進計画を受け、下関市は平成 20 (2008) 年 3 月「下関ぶちうま食育プラン」を策定<sup>1)</sup>。食について楽しく遊びながら学ぶ「下関ぶちうま食育カルタ」<sup>2)</sup>の読み句を市内在住者から募り (1181 名 2452 句応募、46 句選定)、平成 21 年 1 月 25 日、読み句採用者の表彰式とカルタのお披露目を兼ねた「下関ぶちうま食育カルタ大会」を開催した<sup>3)</sup>。なお、この大会では本学栄養健康学科学生が制作した「食育カルタ」も披露された。

一方、保育所・幼稚園に対し、平成 21 (2009) 年 4 月施行「保育所保育指針」第 5 章「健康及び安全」における「3 食育の推進」の新設、「幼稚園教育要領」第 2 章「健康」における「食育」の位置づけが行われ、現場での食育推進が課題となっている。

他方、本学保育学科では「教育の充実」と「教員と学生のコミュニケーション」の促進を重視し、平成 19 (2007) 年度から少人数を旨としたゼミナール制度を試験的に導入し、翌年以降、本格的に実施している。この導入により、従来行われていた保育学科主催「創作発表会」の充実が図られた。「創作発表会」とは、地域社会貢献を目的とした一般の方々への公開行事である。平成 18 年度までは 1・2 年生合同演習授業「児童文化」において学生が主体となり、ぬいぐるみ劇・器楽演奏・ダンス・ブラックシアター等を練習し、毎年 12 月、学外会場を中

心に発表してきた。ゼミナール制度導入後、「創作発表会」は各ゼミナールの研究発表の場として位置付けられたため、学生による活動が主体の演習という形態を踏襲しつつ各教員の専門・研究分野が活かされた発表が行われるようになった。

報告者は一般教育科教員であるが、平成21年度、保育学科よりゼミナール形式の演習授業（1年前期演習「人間と環境」・2年前期「総合演習」、1年・2年後期「児童文化」）の委嘱を受けた。

そこで、冒頭に挙げた国・地方自治体、及び保育現場での食育推進といった近年の動向を踏まえ、報告者は平成21年度保育学科ゼミナール担当教員として「食育」を主題に取り組むことにした。授業目標は、担当指導領域が「言葉」であることに鑑み『『食育』に関する『言語表現』活動実践を通じた保育学科学生の資質向上』と定めた。また、今回ゼミナールで作成した「山口食育カルタ」読み句内容等「食育」に関する専門知識・指導については、適宜、大学の栄養健康学科教員（塩田博子講師）に指導を受け、年度末には連携活動を行った。本稿は、以上のような経緯で筆者が担当した平成21年度授業活動（ゼミナール活動）の報告である。

## 2 実践報告

保育学科ゼミナール（以下「ゼミ」と略記）は、学生が所属ゼミを選ぶ希望選択制である。年度始めの授業時（平成21年度は4月8日実施）に全体説明会を行い、翌週から配属される。平成21年度、報告者のゼミに年間を通じて参加したのは1年生2名（当初の参加は4名。内1名は進路変更のため前期で退学、1名は後期より長期欠席）、2年生3名（内1名は社会人学生）であり、2年生の学外実習期間（前期2回、後期2回）以外は全て1・2年生合同授業を行った。以下、活動の概要を記す。

### 2・1 授業計画・実施概要

先述した授業目標（「食育」に関する「言語表現」活動実践を通じた保育学科学生の資質向上）に基づき、授業内容は、1. 言語表現媒体・教材と「食育」についての学習、2. 実践的な言語表現能力の向上、以上2点を主眼とし、前期は1、後期は2を主体に計画した。また、平成21年度に主軸とする言語表現媒体・教材は、前期第3回授業時に学生相互で話し合った結果、カルタを中心に活動を展開することとした。授業実施内容の骨子は以下の通りである。

- 前期 ①領域「言葉」について（概説及び「言葉遊び」についての学習）  
②カルタについて（伝来・歴史学習、種類・遊び方などの学習・実践）  
③「食育」の語源と現状把握・問題点の検討（「食育基本法」・村井弦斎「食育論」の学習、食育関連新聞記事の検討）

- 後期 ④手作りカルタ作成（夏季休業期間より原案作成・推敲、「山口食育カルタ」作成）  
 ⑤展示発表（桜山祭、第 50 回中・四国保育学生研究大会、第 22 回創作発表会）  
 ⑥実践発表（栄養健康学科連携活動）

以上 6 項目を中心に、前期 14 回、後期 15 回の授業と学外活動を行った。以下、④～⑥について個別の実践状況を報告する。

## 2・2 教育実践（「山口食育カルタ」作成経過報告）

前期授業の最終月である 7 月、「食育カルタ」作成に関して、主題内容（地域）・対象年齢等の具体的な検討を行った。

主題とする食産品（郷土料理）の地域について、下関市域は前述の通り「下関ぶちうま食育カルタ」が既に作成されているため「全国 46 都道府県」「関門地域」という案が出たが、「地産地消の推進を知ったので、地元の食産品について更に学びたい」「どこまでを関門地域とするか困難」という意見を勘案し、身近で分かりやすい「山口県域」とした。

同時に、県域食産品だけでなく「食育を通じた幼児の望ましい食生活形成」（「幼稚園教育要領」）において必要な事項も取り入れることとした。ゼミ授業時に学生間で「食育において必要な事項」について検討を行った結果、〈食生活の見直し・家族の団欒・食への感謝〉を三つの柱とし、読み句は全て 5～6 歳児が理解できる内容の句を目指すこととした。

読み句の句数については当初、江戸期の「いろはカルタ」に倣い、現在は使われなくなった「ゐ」「ゑ」を含めた合計 48 句を作成することとした。これらの決定事項を受けて、学生一人あたり約 10 句の原案作成を夏季休業期間中に行うことを課題とし、後期授業時に内容検討・推敲の作業を行い、10 月 14 日、原案が完成。全ての原案に対して見直しや推敲を行うと同時に、塩田博子講師（栄養健康学科）の御指導を受け、5 句の読み句を変更した（表 1）。

表 1 原案から変更した読み句一覧（下線部は 主な変更語句）

	原案（変更前）	完成句（変更後）	理由
1	「ご馳走様」 <u>ご飯のあと</u> もご挨拶	ご挨拶「 <u>頂きます</u> 」と「ご馳走様」	食前の「頂きます」もあると良い
2	西条柿 殿様が好きな <u>しぶい</u> 柿	<u>西の京</u> 殿様が好きな 西条柿	「しぶい」と食欲が湧かない人もいる
3	トマトさん <u>垢田</u> でとれるよ 垢田のトマト	トマトさん <u>甘くて</u> 美味しい垢田のトマト	美味しさを強調した方が良い
4	ちしなます 酢味噌であえた <u>サラダ</u> です	ちしなます 酢味噌を使った <u>あえ物</u> だ	「あえる」「サラダ」が混同し分り辛い
5	よく考えよう 食のバランス <u>食のコマ</u>	よく考えよう 食のバランス <u>野菜も</u> ね	「食のコマ」は分り辛い

（表 1）2 番目の「西条柿」は渋柿のため、当初は「しぶい柿」としたが、塩田講師から「それでは食欲が湧かない人もいる」という指摘を受けた。また、西条柿は「萩市・美祢町な

ど、県内のほぼ全域で栽培されている」<sup>4)</sup>。この2点を参考に、県庁所在地山口市の代名詞として使われる「西の京」という言葉を用いることによって、江戸時代の「いろはカルタ」(江戸いろはカルタ「京の夢 大坂の夢」、上方いろはカルタ「京に田舎あり」)に使われていた「京」を使用した句として増やし、合計49句とした。

5番目の「よく考えよう 食のバランス 食のコマ」という句については、塩田講師に「農林水産省『食事バランスガイド<sup>5)</sup>』を知らない子どもにとって『食のコマ』という言葉では分かりにくい」という指摘を受けると同時に「現代の食生活において、主食・主菜・副菜の中で、副菜である野菜不足が問題になっている」という御指導を頂いた。そこで「野菜」という具体的な食品群を表す言葉を入れて改善を図った。以上の指導を経て、10月28日に49句の読み句が完成した(表2)。

表2 「山口食育カルタ」読み句一覧 (無断使用厳禁)

	読み句(平仮名)	読み句(漢字入り表記)
あ	あんぴんもち あずきがたっぷり おいしいもちがし	あんぴん餅小豆がたっぷり美味しい餅菓子
い	いちごはね しものせきでも にんきもの	イチゴはね 下関でも 人気者
う	うにめしは いそのかおり いいかおり	うに飯は 磯の香り いい香り
え	えびおよぐ せとないかいの あかえびたいりょう	エビ泳ぐ 瀬戸内海の 赤蝦大漁
お	おいしいね なんでもすすんで たべようね	美味しいね 何でもすすんで 食べようね
か	かきちしゃは きせつがかわると いろいろかわるよ	かきチシャは 季節が変わると色も変わるよ
き	ぎょはんだよ さかなとやさいが たっぷりだ	魚飯だよ 魚と野菜が たっぷりだ
く	くじらはね でっかいうみの めぐみだよ	クジラはね でっかい海の 恵みだよ
け	けんさきいか いかのおうさま こっといいか	剣先イカ イカの王様 特牛イカ
こ	ごあいさつ「いただきます」と「ごちそうさま」	ご挨拶「頂きます」と「ご馳走様」
さ	さんさいは たけのこ・ぜんまい おやまのめぐみ	山菜は 竹の子・ゼンマイ お山の恵み
し	しろおくら ねばねばパワーの げんきやさい	白オクラ ねばねばパワーの元気野菜
す	すいかだよ くろいのすいか しまむそう	スイカだよ 黒井のスイカ 縞無双
せ	ぜんこくいち しものせきであがる ふゆのあんこう	全国一 下関で揚がる 冬のアンコウ
そ	そうめんは きがわちょうの でんとうひん	素麺は 菊川町の 伝統品
た	たいせつな ちからのもとだよ たんすいかぶつ	大切な 力のもとだよ 炭水化物
ち	ちしゃなます すみそをつかった あえものだ	ちしゃなます 酢味噌を使った あえ物だ
つ	つしまのおきでとれるよ さざえやあわび	角島の沖で捕れるよ サザエやアワビ
て	てつだおう りょうりてつながる てどころ	手伝おう 料理でつながる 手と心
と	とまとさん あまくておいしい あかだのとまと	トマトさん 甘くて美味しい 垢田のトマト
な	なつみかん なつのかおりだ あまずっぱいね	夏みかん 夏の香りだ 甘酸っぱいね
に	にんじんを のこさず おいしくたべましょう	ニンジンを残さず 美味しく食べましょう
ぬ	ぬかさずに さんしょくたべよう あさ・ひる・ばん	抜かさずに 三食食べよう朝・昼・晩
ね	ねっこだよ だいこん・たまねぎ こんさいるい	根っこだよ ダイコン・タマネギ 根菜類
の	のみこむまえ しっかりかんで よくかんで	飲み込む前 しっかり噛んで よく噛んで
は	はなっこりー はな・くき・はっぱ たべようね	はなっこりー 花・茎・葉っぱ食べようね
ひ	ひしおはね だいずとこむぎの はっこうしょくひん	醬はね 大豆と小麦の 発酵食品
ふ	ふくりょうり ふくさし、ふくなべ ふくがきた	ふく料理 河豚刺し・河豚鍋 福が来た
へ	へいじつも かぞくのしょくじ たいせつに	平日も 家族の食事 大切に

ほ	ほして ほぞん かんてん・かんびょう・ほしいたけ	干して保存 寒天・干瓢・干し椎茸
ま	まめせいひん とうふ・なっとう はたけのおにく	豆製品 豆腐・納豆 畑のお肉
み	みとうごぼう かるすただいちで そだったよ	美東ゴボウ カルスト台地で 育ったよ
む	むしりょうり おいしさぎゅっと つまってる	蒸し料理 美味しさギュッと 詰まってる
め	めぞそうよ のこさずたべる げんきなこ	目指そうよ 残さず食べる 元気な子
も	もうおきた？ みんなでたべよう あさごはん	「もう起きた？」 みんなで食べよう 朝ご飯
や	やすおかねぎ ふくりょうりや かわらそばと いっしょにね	安岡ネギ ふく料理や瓦そばと 一緒にね
み	みとこには あずきをことごと やわらかく	みとこ煮は 小豆をコトコト 柔らかく
ゆ	ゆうれいずし たいがかくれる ちょうしゅうずしだ	ゆうれい寿司 鯛が隠れる長州寿司だ
ゑ	ゑびずさま りょうのかみさま たいせつに	恵比寿様 漁の神様 大切に
よ	よくかんがえよう しょくのばらんす やさいもね	良く考えよう 食のバランス 野菜もね
ら	らくのうで ぎゅうにゅう・チーズ・ばたー ができるよ	酪農で 牛乳・チーズ・バターができるよ
り	りんごがり みんなで とくさに いってみよう	リンゴ狩り みんなで徳佐に行ってみよう
る	るーるだよ てれびをけて たべましょう	ルールだよ テレビを消して 食べましょう
れ	れんこんだ いわくにれんこん もっちりしゃきしゃき	蓮根だ 岩国レンコン もっちりシャキシャキ
ろ	ろくがつは しょくいっげっかん みんなではなそう たべること	六月は食育月間 みんなで話そう食べること
わ	わかめむすび わたしたちの なつかしいあじ	わかめむすび 私達の 懐かしい味
を	ゆずみそを ごはんのにせて たべましょう	ゆず味噌を ご飯のにせて 食べましょう
ん	ん せていさい いかとたべるよ おこしまい	先帝祭 イカと食べるよ おこし米
京	にし京 とのさまがすきな さいじょうがき	西の京 殿様が好きな 西条柿

以上の読み句を元に、10月末、学生1人あたり約10枚の絵札を作成に取り掛かった。札の大きさは15cm×10cmと市販の札より大きくし、読み札は平仮名3行、左端に小さく漢字入りにして1行で記し、合計2箇所まで表記することにした。全ての絵札が出来上がったのは、12月5日、第50回中・四国保育学生研究大会当日であり、その後も読み札・絵札の改善を行った（「2・3ポスター発表」参照）。

## 2・3 展示発表

「カルタ」は本来、数人が参加して詩句に合わせて取り、取った数で勝負を競う遊戯として知られる。しかし、それでは大勢に対して発表できないため、絵札・読み札や解説を机上に並べた展示発表を1回、色模造紙に貼って展示する「ポスター展示発表」を2回行った。

### 2・3・1 桜山祭（平成21年11月7日～8日）

下関短期大学の大学祭「桜山祭」期間中、図書館2階研修室において手作りカルタの机上展示発表を行った。10月28日、読み句は完成したが、絵札・読み札の作成が間に合わなかったため、読み句一覧表と作成中（文字札は鉛筆書のみ絵札は一部色塗り済）の札を展示した作成経過報告となった（写真1参照）。未完成の状態での展示に対して当初、ゼミ所属学生にも抵抗があったが、「経過報告」という形で、他学生の反応も参考にし、より良い作品制作を目指すことにした。その結果、ゼミ所属学生は作成中の札の客観的な確認が出来、学生同士の意見



(写真1) 桜山祭机上展示状況  
(向って左3人が参加学生)



(写真2) 第50回中・四国保育学生研究大会  
展示状況(参加学生5名と筆者)

交換を通じて「読み札の字や絵札の図柄を出来るだけ大きくした方が見えやすい」「文字の大きさを出来るだけ統一する必要がある」ことに気付き「遠目のきく分かりやすいカルタを作成する」という目標が明確化された。

## 2・3・2 第50回 中・四国保育学生研究大会(平成21年12月5日)

桜山祭終了後、11月中のゼミ活動ではカルタ作成の続行と同時に「第50回 中・四国保育学生研究大会」(主催:中・四国保育士養成協議会、参加校:46校、参加保育学生・教員:1108名、会場:海峽メッセ下関、当番校:下関短期大学)の開催運営準備を行った。毎冬、各県持ち回りで開催される本大会は、開催県の中で当番校が決定され、学生が主体となって運営を行うことが慣例となっている。報告者のゼミ所属学生は、研究発表の司会運営等を担当することになったためである。

大会当日、ゼミ学生は運営の手伝いだけでなく「第50回の当番校・当番地区として相応しい歓迎を行う」という目的で、「山口食育カルタ」を展示発表することにした。分科会は5会場に分かれていたが、開・閉会式を行うメイン会場となったイベントホールのロビーにおいて、仮設パネルを設置して色模造紙にカルタを貼った「ポスター展示発表」を行った(写真2参照)。

展示物の横に簡易アンケートを吊るして希望者による記述回答をお願いしたが、当日の昼休憩が約40分しかなかったこともあり、回答は得られなかった(アンケートの設問内容は2・3・3参照)。

しかし、今回の発表は、全読み札・絵札を一覧展示した初の機会となったため、自己の作成担当札にしか注意を払わなかったゼミ学生にとって、カルタ49組を一つの総体として熟覧する好機となった。その結果、絵札の色の塗り方や輪郭線の太さに個人差があることに気付いたため、薄い着色の札は色のコントラストを強くして塗りなおすこと、輪郭線が細い札は太く修正することとした。

特に「へ」「め」の絵札は、研究大会後に作り直した(図1、図2参照)。「へ」(平日も家族





(図1)「へ」絵札(左)変更前→(右)変更後  
(平日も家族の食事 大切に)



(図2)「め」絵札(左)変更前→(右)変更後  
(目指そうよ残さず食べる元気な子)

の食事大切に)は宇宙人の家族団欒を描いたが、家族のテーブルを大きく描きなおし、曜日  
を星の中に入れた。「め」(目指そうよ残さず食べる元気な子)は、子どもの上半身をクローズアッ  
プし、野菜もひと回り大きくして、輪郭線を太くした。

### 2・3・3 第22回創作発表会(平成21年12月19日)

「1. はじめに」で紹介したように平成21年度創作発表会は、各ゼミナールの研究発表の  
場としてシーモール下関内シーモールホールで開催された。展示作品は、「第50回 中・四国  
保育学生研究大会」における展示発表を通じて修正した「山口食育カルタ」(絵札:写真3)  
と、カルタ作成の途中で調べた食品や食育関連事項についてのポスター発表である。発表内容  
は「村井弦斎と旬の食材」(2年生 川野都作成)をはじめ、「山口の食」について「ひしお」  
(2年生 上之原翔平・加賀落静作成)、「西条柿」(1年生 久保田有希作成)、「垢田トマト」  
(1年生 福富明日香作成)以上の4項目である(写真3~11。読み札は割愛。読み句は前掲  
(表2) 「山口食育カルタ」読み句一覧参照)。

研究大会時と同じ4つの設問からなる簡易アンケート(希望者記述)を行ったところ、6人  
の来場者から回答を得ることができた。設問と結果は以下の通りである。

①どちらから来られましたか? [下関市5人、山陽小野田市1人]

②「山口食育カルタ」は分かりやすかったですか?(回答4段階)

・読み札について [とても分かりやすかった4人、まあまあ分かりやすかった2人]

・絵札について [とても分かりやすかった4人、まあまあ1人、あまり分からなかった1人]

③一番印象に残った札は何ですか? [印象に残った理由] (無回答1人)

・「り」[(りんごの)イラストがくっきりしていたから。]

・「と」[色使いにパワーがあり、食べると元気になりそう。] [絵札のトマトがかわいい。]

・「ゑ」[恵比寿様が上手に描けていた。札の意味も分かった。]

・「し」[白オクラをまだ見たことがないので、見てみたいと思った。]





(写真3) シーモールホール内ロビーポスター展示風景



(写真4) 「山口食育カルタ」題字(紙皿使用)と説明



(写真5) 「山口食育カルタ」絵札「ま〜京」



(写真6) 「山口食育カルタ」絵札「あ〜ほ」



(写真7) 村井弦斎と旬の食材について



(写真8) 堀田のトマトについて



(写真9) 西条柿について



(写真 10) 「ひしお」について



(写真 11) 「各地のひしおの作り方」

④ご意見・ご感想をお願いします。(無回答 2 人)

- ・それぞれ工夫がこらしてあって面白かった。手作りの良さが伝わった。
- ・山口に関するカルタをみて、山口がすごい事に感心した。絵も上手で良かった。
- ・よく調べてまとめてある。絵も可愛い。
- ・一家全員で笑って、泣いて、住んで欲しい。

アンケート回答者が少なかったものの読み札・絵札とも「とても分かりやすい」と答えた方が約 6 割、絵札については「(とても・まあまあ) 分かりやすい」という回答が 8 割を占めたため、12 月 2 回のポスター発表の機会を得ることによって、初めてみた方にも「分かりやすい」カルタの絵柄に改善することが出来たように思う。

なお、アンケート回答③の「白オクラ」について付記したい。インターネットのホームページ「まるごと！山口 net」<sup>6)</sup>によると「長門市三隅」で栽培されているが、下関在住学生数人に聞いたところ「市内の店頭でみたことはない」という。そこで、同ホームページ主催団体である「やまぐちの農水産物需要拡大協議会事務局」に下関市への出荷状況を伺うと、田中進主任より「大半が長門地方卸売市場経由で長門市内の量販店等で販売され、一部が市外に流通しているが、数名の生産者が年間 1.5t を出荷しており下関には殆ど流通していない。平成 22 年 10 月現在、産地では新規の栽培者を募り、少しずつではあるが、出荷量が増加する努力を続けている。」という御教示を頂いた。

## 2・4 実践発表

栄養健康学科では、平成 18 年度より塩田博子講師を中心に「付属幼稚園と短大の食育についての連携の試み」<sup>7)</sup>が行われており、その一貫として年長児に対して卒園直前の 3 月、親子料理教室「おにぎりづくり」を行っている。平成 21 年度は「三色おにぎり・豚汁・3 色だんご」作りが実施されたが、塩田講師と付属幼稚園の御配慮により、試食会終了後、約 20 分間

「親子で遊ぶカルタ大会」という形で、「山口食育カルタ」の実践発表として「親子カルタ大会」をさせて頂く機会を得た。

そこで、平成22年1月、ゼミ学生が各自、「山口食育カルタ」を使った20分の「保育計画案」を作成し、検討を行った。一番の問題点は、約30名の幼児とその保護者全員で楽しめるカルタ遊びの方法を決定することであった。「カルタを複数組用意して全体を3～4グループに分け、保護者と園児が一緒になって札を取るカルタ合戦を行う」という案も出たが、クラス全員で楽しめるゲーム形式のカルタ遊びを行う案を採用し、後期試験終了後の2月上旬、当日の実施に向けて「保育計画案」を再考した。計画案作成時に予定していた「カルタゲーム」の手順は以下の通りである。

#### (1) 前準備

テーブルを2つ用意し、向って左の机には全ての絵札を図柄がみえるように広げて配置し、右の机には参加者分の読み札を5つの山に分配して置く。保護者と園児は2人1組になって5列に並ぶ。

#### (2) 遊び方

- ① 保護者が右側の机に行き、読み札を1枚取り、黙読し、札を伏せながら子どものそばに戻る。
- ② 読み札を子どもに見せずに、耳元で札の句を文面通り伝言する。
- ③ 子どもは左側の机の前へ移動し、聞いた句の絵札を探して、1枚選んで戻ってくる。
- ④ 親子で確認した後、子どもの選んだ札が正しければ元の列の一番後ろに並ぶ。
- ⑤ ①～④を繰り返す。机上のカルタが無くなったら終了。早く終わった列から全員に紹介する。

以上①～⑤、一連の作業を1回のゲームとし、これを2回繰り返すこととして保育計画を作成した。また、事前準備としてカルタの複製を2組ずつ作成した。当日のゲーム用(カラーコピー拡大複写A5)、園用のカルタ1組(厚紙で裏打ちしたカルタ)である。2回目のゲームで取った札(1組)は、家庭に持ち帰って頂き、保護者には読み句一覧を配布して、全ての句が分かるようにした。

### 2・4・1 下関短期大学付属第一幼稚園(平成22年3月2日実践発表、年長組園児29名)

付属幼稚園での実践発表を前に、2月17日、塩田講師と当日ボランティアを行う栄養健康学科学生と内部での事前打ち合わせ後、開催日前日の3月1日、短大参加者(教員・学生)と付属第一幼稚園参加者(園長・担当教員・当日作業班代表の保護者8名)とで合同の打ち合わせを行った。栄養健康学科学生・教員が一日の流れ、持参品等を説明。「カルタ遊び」については園でも取り組んでいるため、「家庭でも時折、遊んでいる」という状況を伺った。

当日3月2日、執筆者のゼミ所属学生の参加者は2年生2名(1年生は施設実習中のため欠席。2年生1名は病欠)。当日は、9時半から親子「おにぎり教室」を開始。調理、食事・意

見交換、片付けの終了後、保護者にアンケート記入〔栄養健康学科、執筆者のゼミ作成物（図3）の2種類〕を依頼し、12時50分頃から「親子カルタ大会」を開始した。

手遊び・ルール説明が終わった後、先述した「カルタゲーム」を2回、行った。保育計画では15分であったが、園児が日頃からカルタ遊びに親しんでいるせいか、6～7分で終了してしまった。

そこで、園児ひとりずつ順番に前に出てもらい、取った札（1組）を全員に見せながら、作成者であるゼミ学生と執筆者が札についての解説を行い、全員で読み句を復唱した。時間に余裕があったことと、不公平感を与えないようにという配慮から、急遽、全員の読み札を紹介することにした。保護者は一生懸命聴いて下さったが、中にはあくびをする園児もいて、全員の集中力が続いていないようであった。ゲームにかかる時間・子どもの行動の予測を十分に行い、ゲーム後の対応についても場合に応じて数種、検討しておくべきであった点を反省した。

#### 2・4・2 下関短期大学第二幼稚園（平成22年3月4日実践発表、年長組園児29名）

付属第二幼稚園での「おにぎり教室」開催日3月4日、執筆者のゼミ所属学生の参加者は2年生1名であった（1年生は施設実習終了日翌日で体調を壊したため欠席。2年生2名は病欠）。そのため当日朝、予め「カルタゲーム」を行う際、もとの列の最後尾に付く誘導を栄養健康学科学生にも補助を依頼した。9時半から親子「おにぎり教室」を開始。調理、食事・意見交換、片付け終了後、保護者にアンケート記入（付属第一幼稚園配布と同じ2種類）を依頼し、12時45分頃から「親子カルタ大会」を開始した。

第一幼稚園での経験をもとにして改善を図ったのは以下の2つである。1つ目はゲームの方法である。初回は保護者と共に絵札を探す、2回目は子どもだけで絵札を探す、という2回戦形式にしたため、ゲームに難易度が加わり、より競争心が高まったようであった。2つ目は、全員に行ったため間延びしたカルタの事項説明である。説明してもらいたい希望者は、その場で挙手を依頼し、希望者のみ前に出てもらい、説明・解説を行った。以上、2つの改善を加えることによって、間延びしたような全体の雰囲気は改善された。

☆「山口食育カルタ」に関するアンケート☆

より良い幼稚園・短大の食育推進活動、学術研究推進を行うためアンケートにご協力をお願いします。

① 本日のイベントに参加された保護者は？ 父親・母親・祖父・祖母・( )

② お子様の性別 ( 男の子・女の子 )

「食育」についてお尋ねします。

① ご家庭で「地産地消」(地元の農産物を地元で消費)を意識しておられますか？ (はい・いいえ)

② 山口(下関)の「伝統食」(昔から伝わる食べ物)といえば何を思い出されますか？

③ ご家庭でおつくりになる「伝統食」があれば教えてください。

④ 一週間の中で家族揃って食事をとる機会がありますか？ 該当する曜日を○で囲んで下さい。  
(朝食) 月・火・水・木・金・土・日  
(夕食) 月・火・水・木・金・土・日

⑤ ご家庭で「食育」面において配慮しておられることがあればお書き下さい。  
(例)インスタントラーメンはあまり食べない。家族で食事をする時はテレビはつけないようにしている。

「食育カルタ」についてお尋ねします。

①「山口食育カルタ」は分かりやすかったですか？  
【「読み札」について】  
とても分かりやすかった・まあまあ分かった・あまり分からなかった・分かりにくかった

【「絵札」について】  
とても分かりやすかった・まあまあ分かった・あまり分からなかった・分かりにくかった

② お子様の意見、感想をお聞かせ下さい。

③ 保護者の意見、感想をお聞かせ下さい。

ご協力、ありがとうございました。今後の活動の参考に致します。 下関短期大学 高杉研究室

(図3)「山口食育カルタ」に関するアンケート



平成21年度「山口食育カルタ」アンケート結果について  
 下関国際大学 高杉志緒

この度は、食育活動のご参加に感謝、アンケートにご記入いただき、ありがとうございます。アンケートには、お子様ご本人が選ばれるものも含まれており、保護者様にもアンケート回答をお願いしております。アンケート結果をふまえて、今後の活動の進め方にさせていただきます。ご参加いただき、ありがとうございます。アンケート結果を、保護者様へお伝えいたします。(参加者数：アンケート回答者 422名、保護者様 248名、合計回答者 670名)

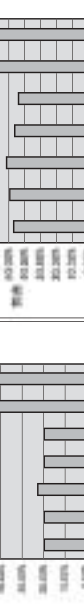
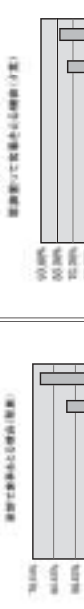


アンケート結果について、アンケート結果をふまえて、今後の活動の進め方にさせていただきます。ご参加いただき、ありがとうございます。アンケート結果を、保護者様へお伝えいたします。(参加者数：アンケート回答者 422名、保護者様 248名、合計回答者 670名)

山口下関市の状況について

性別	男	女	計
人数	194名(29%)	194名(29%)	388名(58%)
年齢	3歳	4歳	5歳
人数	124名(19%)	124名(19%)	248名(37%)

アンケート結果をふまえて、今後の活動の進め方にさせていただきます。ご参加いただき、ありがとうございます。アンケート結果を、保護者様へお伝えいたします。(参加者数：アンケート回答者 422名、保護者様 248名、合計回答者 670名)

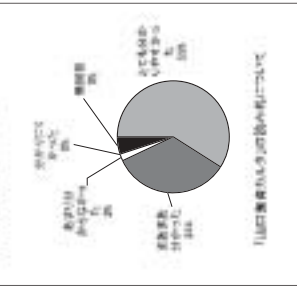


アンケート結果をふまえて、今後の活動の進め方にさせていただきます。ご参加いただき、ありがとうございます。アンケート結果を、保護者様へお伝えいたします。(参加者数：アンケート回答者 422名、保護者様 248名、合計回答者 670名)

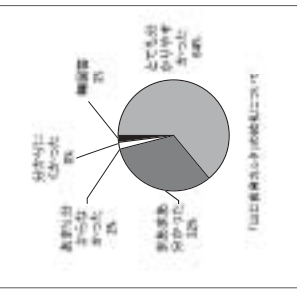
アンケート結果をふまえて、今後の活動の進め方にさせていただきます。ご参加いただき、ありがとうございます。アンケート結果を、保護者様へお伝えいたします。(参加者数：アンケート回答者 422名、保護者様 248名、合計回答者 670名)

性別	男	女	計
人数	194名(29%)	194名(29%)	388名(58%)
年齢	3歳	4歳	5歳
人数	124名(19%)	124名(19%)	248名(37%)

山口食育カルタについて



アンケート結果をふまえて、今後の活動の進め方にさせていただきます。ご参加いただき、ありがとうございます。アンケート結果を、保護者様へお伝えいたします。(参加者数：アンケート回答者 422名、保護者様 248名、合計回答者 670名)



アンケート結果をふまえて、今後の活動の進め方にさせていただきます。ご参加いただき、ありがとうございます。アンケート結果を、保護者様へお伝えいたします。(参加者数：アンケート回答者 422名、保護者様 248名、合計回答者 670名)

### ゆうれい寿司

【調理時間】 10分〜15分 (準備時間含む)

【材料】 1人前あたり

- 1. 白米 100g
- 2. 酢 10g
- 3. 醤油 10g
- 4. 砂糖 10g
- 5. 卵 1個
- 6. 醤油 10g
- 7. 砂糖 10g
- 8. 醤油 10g
- 9. 砂糖 10g
- 10. 醤油 10g
- 11. 砂糖 10g
- 12. 醤油 10g
- 13. 砂糖 10g
- 14. 醤油 10g
- 15. 砂糖 10g
- 16. 醤油 10g
- 17. 砂糖 10g
- 18. 醤油 10g
- 19. 砂糖 10g
- 20. 醤油 10g

【作り方】

1. 白米を炊く。
2. 酢、醤油、砂糖を混ぜる。
3. 卵を茹でる。
4. 卵を醤油、砂糖で煮る。
5. 卵を醤油、砂糖で煮る。
6. 卵を醤油、砂糖で煮る。
7. 卵を醤油、砂糖で煮る。
8. 卵を醤油、砂糖で煮る。
9. 卵を醤油、砂糖で煮る。
10. 卵を醤油、砂糖で煮る。
11. 卵を醤油、砂糖で煮る。
12. 卵を醤油、砂糖で煮る。
13. 卵を醤油、砂糖で煮る。
14. 卵を醤油、砂糖で煮る。
15. 卵を醤油、砂糖で煮る。
16. 卵を醤油、砂糖で煮る。
17. 卵を醤油、砂糖で煮る。
18. 卵を醤油、砂糖で煮る。
19. 卵を醤油、砂糖で煮る。
20. 卵を醤油、砂糖で煮る。

### あんびん餅

【調理時間】 10分〜15分 (準備時間含む)

【材料】 1人前あたり

- 1. 白米 100g
- 2. 酢 10g
- 3. 醤油 10g
- 4. 砂糖 10g
- 5. 卵 1個
- 6. 醤油 10g
- 7. 砂糖 10g
- 8. 醤油 10g
- 9. 砂糖 10g
- 10. 醤油 10g
- 11. 砂糖 10g
- 12. 醤油 10g
- 13. 砂糖 10g
- 14. 醤油 10g
- 15. 砂糖 10g
- 16. 醤油 10g
- 17. 砂糖 10g
- 18. 醤油 10g
- 19. 砂糖 10g
- 20. 醤油 10g

【作り方】

1. 白米を炊く。
2. 酢、醤油、砂糖を混ぜる。
3. 卵を茹でる。
4. 卵を醤油、砂糖で煮る。
5. 卵を醤油、砂糖で煮る。
6. 卵を醤油、砂糖で煮る。
7. 卵を醤油、砂糖で煮る。
8. 卵を醤油、砂糖で煮る。
9. 卵を醤油、砂糖で煮る。
10. 卵を醤油、砂糖で煮る。
11. 卵を醤油、砂糖で煮る。
12. 卵を醤油、砂糖で煮る。
13. 卵を醤油、砂糖で煮る。
14. 卵を醤油、砂糖で煮る。
15. 卵を醤油、砂糖で煮る。
16. 卵を醤油、砂糖で煮る。
17. 卵を醤油、砂糖で煮る。
18. 卵を醤油、砂糖で煮る。
19. 卵を醤油、砂糖で煮る。
20. 卵を醤油、砂糖で煮る。

山口食育カルタについて

アンケート結果をふまえて、今後の活動の進め方にさせていただきます。ご参加いただき、ありがとうございます。アンケート結果を、保護者様へお伝えいたします。(参加者数：アンケート回答者 422名、保護者様 248名、合計回答者 670名)

(図4) 平成21年度「山口食育カルタ」アンケート結果について

### 2・4・3 アンケート実施・集計・報告

下関短期大学付属幼稚園で「おにぎり教室」「親子カルタ大会」開催当日に配布したアンケートに対し、付属第一幼稚園（当日参加園児 29 名、回答 24 件、回収率 82.8%）、付属第二幼稚園（当日参加園児 22 名、回答 17 件、回収率 77.3%）の回答を得た。付属第一幼稚園・付属第二幼稚園の結果を総数として集計した結果を3月15日付で作成し、双方の園児保護者に「平成21年度「山口食育カルタ」アンケート結果について」と題した資料（A3版1枚、図4）を配布した。

アンケートの結果、今回作成した「山口食育カルタ」の読み札・絵札に対し、「とても分かりやすかった」が約6割、「まあまあ分かった」が約3割を占め、「子ども（年長児）のための分かりやすい食育カルタを作成する」という目標はほぼ達成できたと考えられる。また、若干の絵札について質問を頂いたため、宇宙人は身近な人間の家族に描きなおす等の改善の必要性を感じた。

以下、(図4)記載以外のカルタに関する自由記述「食育カルタについてお尋ねします」(②③)を内容別に列記した(丸括弧内の数字は回答数)。なお、回答中に質問があった「あんびん餅」「うれしい寿司」は、アンケート結果と共に下関市が作成した資料を転載して保護者に配布した(図4)。更に後日、各園では卒園前に数回、保育中に「山口食育カルタ」で遊んだところ好評だったと伺った。

#### ②「お子様の意見・感想」

##### 全体的な感想

- ・楽しかった。(16)
- ・おもしろかった。(3)

##### ゲーム方法等について

- ・ひとり1回でなく、もっと沢山できると思った。しかし、幼稚園でもらえたので良かった。(2)
- ・普通のカルタ取りをすと思っていたようで、少し物足りなさそうだったが、とても楽しかった。
- ・聞きなれない言葉もあったが、カルタが大好きなので、真剣に楽しんでいた。
- ・色々な食材を聞いて、食べたことがあるとかないとか、楽しそうに答えていた。
- ・意味が分からない事を先生に教えてもらい良かった。
- ・幼稚園でみんなと遊びたい。

##### カルタについて

- ・知らない食物が沢山あった。
- ・(地名、町名を知らないため)分かりにくかった。
- ・知っている土地(黒井・安岡)があった。
- ・良く分かって面白かった。

##### カルタに関する質問

- ・干し物の絵は寒天？切干大根？
- ・あんびん餅がどこで買えるか知りたい。
- ・「もう起きた？」の札を持って帰ったが、誰が食べているのか「宇宙人？」と知りたかった。



### 帰宅後の反応について

- ・聞いたことのない食材もあったが、簡単に教えてあげると理解して文字札の全文をみていた。
- ・普段聞かないような食べ物も出てきて、帰って質問せめにあった。
- ・角島に行ったことがあるので、帰ってから何度も読んでいた（「つ<sup>つ</sup>のしまで〜」）。

## ③「保護者の意見、感想」

### 全体的な感想

- ・自分の知らない食材が分かり、勉強になった。（８）
- ・知らない食材の名前が出てきて、読み札が面白かった。（４） ・とても楽しい時間だった。（２）

### ゲーム方法等について

- ・子どもと一緒にゲームが出来て面白かった。（２） ・少し時間が短かったと思う。もう少し、カルタについて話を聞きたかった。 ・最後に札を皆で声に出して読んだのが良かった。

### カルタについて

- ・分かりやすく、一度聞くだけで覚えるられた。 ・山口県産の食べ物が入っていて覚えやすい。
- ・日本地図に興味があるので、山口県内の特産物を取り入れるのも良いと感じた。
- ・絵も覚えやすく、子どもが喜びそう。 ・楽しく、絵札もかわいい。
- ・少し大人向けとも思うが、絵もかわいくて、楽しめた。 ・とても上手に出来ていた。
- ・幼稚園児にはもう少し簡単なカルタが良いと思う。 ・食に関するカルタは初めてだった。
- ・子どもがカルタに興味を持っている時期なので、カルタを楽しみながら食育についても知る事ができて一石二鳥だと思う。
- ・食を教えるカルタはなかなかないので、子どもに良いと思った。
- ・以前、児童館で「下関食育カルタ」を行ったが、山口県内（市外）の特産も分かってよかった。

### カルタを介した親子のコミュニケーションについて

- ・子どもは「山菜」と言われても分からなかったが、教えることで一つ「食育」の勉強になった。
- ・親の自分が知らないものもあり、親子で楽しく食について学習できる良い方法だと思った。
- ・子どもには難しい単語が入っているので、大人が意味を説明しながら行うのには、親子のスキップも取れて良いと思う。
- ・子どもと一緒にやることで子どもも分からないことを知ろうとするので、とても良いと思った。

### 食品について

- ・あんぴん餅、白オクラ、はなっコリー等を知らなかった。
- ・特牛のイカ等、地元の農産物・食べ物を知らなかった。 ・白オクラ、是非食べてみたい。
- ・あんぴん餅、ゆうれい寿司が分からなかった。 ・一番興味深い「白オクラ」探してみようと思う。

#### 帰宅後の反応、今後の普及等について

- カルタのプリントを家で読み返した時も楽しかった。
- こんなカルタも今後普及して欲しい。
- 子ども達がとても楽しそうだったので、食育カルタで遊ぶ時間が他にもあれば、もっと理解し、覚えてくれると思った。
- 子ども達に感謝の気持ちを抱いて欲しい。
- 改めて食について考えることができた。「地産地消」を意識したい。

#### 学生に対して

- 食品豆知識のような文や個性的な絵を描いてくれて感激。
- 言葉を正しく理解していると感心。

### 3 おわりに

「食育」「地産地消」等の社会的動向に鑑み、今回「山口食育カルタ」の作成・発表を通じ、ゼミ授業の目標〈領域「言葉」を土台に「食育」に関する保育学生の資質の向上〉は概ね達成できたと考えられる。また、幼稚園における実践活動を通じて「食育カルタ」は、子どもだけでなく保護者に対する「食育」や、親子のコミュニケーション促進に対しても有効であることが判明した。

今後、更なる学生の資質向上を目指すと同時に、地域交流・実践活動も踏まえたゼミナール活動を展開することを目標としたい。同時にカルタだけでなく紙芝居等の表現媒体・発表も工夫したい。

#### 謝辞

本稿の作成にあたり資料転載の御許可を頂いた「下関市保健部健康づくり課」、農水産物等について御教示頂いた「やまぐちの農水産物需要拡大協議会事務局」（田中進主任）、御協力・御尽力頂いた下関短期大学付属第一幼稚園・下関短期大学付属第二幼稚園・栄養健康学科（木村秀喜教授・塩田博子講師）、桂武人広報・進路支援課長（写真1、写真2撮影者）、和文題名・要旨を英訳頂いた David Kalischer 氏（福岡市総合図書館映像資料課勤務）に対し、記して謝意を表します。

#### 引用・参考文献

- 1) 下関市編集発行：「下関ぶちうま食育プラン」, 46pp., 2008年
- 2) 下関市保健部健康づくり課編集発行：「下関ぶちうま食育カルタ 解説本」, 47pp., 2010年
- 3) 下関市：「下関ぶちうま食育プラン／食育カルタお披露目イベント 平成21年1月25日」(<http://www2.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/icity/browser?ActionCode=content&ContentID=123>)

2953088380&SiteID=000000000000#no4)

- 4) やまぐちの農水産物需要拡大協議会：「やまぐちの農・水・畜産物／まるごと！やまぐち net／西条柿」([http://www.marugoto-y.net/nousuitiku/nousan/10\\_saizyo.html](http://www.marugoto-y.net/nousuitiku/nousan/10_saizyo.html))
- 5) 農林水産省「食事バランスガイド」2005年([http://www.maff.go.jp/j/balance\\_guide/index.html](http://www.maff.go.jp/j/balance_guide/index.html))
- 6) やまぐちの農水産物需要拡大協議会：「やまぐちの農・水・畜産物／まるごと！やまぐち net／白オクラ」([http://www.marugoto-y.net/nousuitiku/nousan/08\\_shirookura.html](http://www.marugoto-y.net/nousuitiku/nousan/08_shirookura.html))
- 7) 塩田博子・芳賀絵美子「付属幼稚園と短大の食育についての連携の試み—3年間の意識変容と事業評価—」,『下関短期大学紀要』28号, pp.43-54, 2010年3月

**主要参考文献（上記引用文献以外の書籍）**

1. 「日本の食生活全集 山口」編集委員会：「日本の食生活全集 35 聞き書 山口の食事」, 社団法人農山漁村文化協会, 353pp., 1989年